



選挙 憲法への態度が問われる

結果が憲法審査会の行方を決める

行きがかりなのか、世論の流れに抗し切れずなのか、とにかく突然の解散で、暮れの総選挙です。

右翼潮流が強まる中で離合集散や、乱立する党の駆け引きにマスコミの目が集注していますが、各党の憲法への態度に注目しましょう。

自民党は「改憲案」を4月に発表し、「国防軍」創設をうたっています。 Q&Aのなかで

「特に問題なのは、『平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した』という部分です。これは、ユートピア的発想による自衛権の放棄にほかなりません。」とのべ、「国防軍は、我が国の平和と独立並びに国及び国民の安全を確保するための任務を遂行する活動のほか、「国際社会の平和と安全を確保するために国際的に協調して行われる活動を行える」ことと規定し、「国防軍は、軍隊である以上、法律の規定に基づいて、武力を行使することは可能であると考えています。また、集団安全保障における制裁行動についても、同様に可能であると考えています。」と**集団安全保障、海外派兵可能**をねらっています。

民主党は衆院選のマニフェストでは憲法について「憲法を活かし、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義を徹底」とたったひとつ。野田佳彦首相（民主党代表）は「憲法改正は争点と思わない」と強調していますが、争点でなかったはずの消費税増税に執念を燃やしたことを忘れてはなるまい。

憲法に触れないまま、「専守防衛の原則に立ち、動的防衛力、南西重視など防衛大綱にもとづいて**着実に防衛力を整備**します。……外交安全保障の基軸である**日米同盟を深化**させます。嘉手納以南の土地返還の促進など、**日米合意を着実に実施**し、沖縄の負担軽減をすすめます。」として自民に限りなく近くなってしまいました。

第三極とマスコミが持ち上げる勢力も石原・橋下タッグチームは知らぬ人のない改憲派。そして嘉田氏の「未来の党」も卒

原発で協力を広げるのは大いに結構だが、憲法については不明で、小沢一郎氏が仕掛け人で、亀井静香氏や鈴木宗男氏等とも協力するとなると…。原発問題だけに結党の的を絞ったとき他の問題でのまたまた民主党のような状態にならぬよう。

いずれにしても日本共産党や社民党など九条を守ろうとする政党が伸びなければ始まっている憲法審査会の議論の行方も一層怪しくなりそうです。

原発 安心できるはずがない

日本原子力研究開発機構は11月27日、高速増殖炉原型炉もんじゅの設備点検をめぐって、2010年7月以降、延べ9679件の内部規定上の手続きを放置していたと発表。点検が必要な機器を管理するシステムが未完成で、処理が追いつかなかったといいますが、こんなずさんな原発管理では、たとえ廃炉を決めてもなおますます不安。

米軍夜間外出禁止から夜間飲酒禁止令へ

米兵の犯罪の多さに批判が高まる中、米軍はその沈静化にやっきですが、外出禁止も根本解決にはならないと沖縄の人々はみないいます。まさにその通りでまたまた米兵の事件が続いています。そしてついに**夜間飲酒禁止令**！これが守れると誰が思いますか？それなら昼間飲めるのかというわけでなし 不満が募ってヤケ酒！ いや、それが禁止されたのです。

武力で平和はつけない

新ポスター



九条の会・流山の新しいポスターが出来ました。シンボルの「9」の文字の周りを様々な人種・民族の子どもたちがとりかこむ平和な社会をイメージしたものです。ご利用下さい。

<無料です>

